

様式 2

平成 31 年度「学びの組織活性化」推進プロジェクト 訪問記録シート

支援チームの訪問回数 ( 2 ) 回目

学校名	( 出水市 ) 立 ( 米ノ津中 ) 学校	実践校	モデル校
校長名	関戸 達哉	参加者	30人
学力向上担当者名	市村 恵美子		
日時	令和 ( 元 ) 年 ( 9 ) 月 ( 30 ) 日 ( 月 ) ( 13 : 00 ) ~ ( 16 : 45 )		
支援チームメンバー	県総合教育センター 石川 雅仁研究主事 北薩教育事務所 岩下 邦浩指導主事 出水市教育委員会 川野 浩明指導参事		
研修に向けた事前の準備等における成果や課題は何ですか。			
(成果) ・ 事前の準備において、「主体的・対話的で深い学び」に関する課題解決に向けた授業づくりということで、国語科で指導案検討を重ねることができた。また、プロジェクト第1回で決めた「対話」に関する共通実践事項について、他教科と連携するための手立てを考えることができた。 (課題) ・ 授業づくりに向けては国語科のみで行っていたが、他教科からの視点も入れて指導案検討までできればよい。			
研修の成果や課題は何ですか。(参加者の評価や変容等)			
(成果) ・ 本校の実践する4つのTの中で、国語科としては「Talking Time」を重点的に取り組むために「対話」の基本を作成し、活用する授業を全職員で参観し、生徒たちの言動から、2つの視点に沿って意見交換することができた。意見交換の結果、「対話」をするために取り組んだらよいことが整理され、今後、本校で取り組むべき手立てが見えてきた。 (課題) ・ 国語の授業づくりは国語科だけで取り組むというところから、教科等横断的な視点で授業を作っていくという認識にまだ全職員が至っていない。			
今回の研修をこれからどのように生かすことができますか。			
・ 次回に向けて、今回出た「対話」をする際の手立てを入れて授業づくりを進めていく。 ・ 今回の研修で出た成果や課題を、全職員で再度共有する。そして、次回の研究授業研修も全員で参観することで、全校態勢で本校の課題を解決していく意識を高める。			
次回の訪問までに確認したいことや、これから取り組みたいことは何ですか。			
・ 全校で授業改善を図るための方策や、教科横断的な学習の充実を図るための研修はどのようにあればよいかということ。 ・ 第1回目で決めた共通実践事項の進捗状況について、各教科任せにせず、学校全体で見とりを的確に行い、「子どもの姿」で語っていくこと。			

※ 市町村教委、当該教育事務所を通し、県教育庁義務教育課へメールにてお送りください。  
(訪問が終わった後、2週間以内に報告をお願いします。)

